

施策評価に対する外部評価シート (評価対象年度：平成30年度)

施策名〔施策小〕		1 活動・発表・交流の場と機会の提供		政策	1	施策大	4	施策中	2
担当部名		担当課名							
教育部		文化振興課							
評価項目				説明・コメント等					
① 事務事業の妥当性	この施策を構成する事務事業は妥当であるか。 ● 施策の意図から考えて構成する事務事業は適切か。 ● 構成する事務事業に関する重点化の選択及びその根拠は適切か。	A 大変評価できる	3	● 構成する事務事業は適切と考えます。(A) ● 妥当であると評価いたします。(A) ● 施策の意図が学習活動の機会提供や育成である以上、公民館運営事業に重点を置くのは妥当であります。公民館運営事業は一般財源の持ち出しが多いものの、一部は受益者負担金であることは、評価できます。また、H30からR11にかけて、受益者負担金が増加したとしても、利用者数が増加するのは高く評価できるだけでなく、公民館に対する市民のニーズが高いと考えられます。(A) ● 施策の対象・意図は、市民に対し、教養・文化に関する各種公民館講座を設け、市民の学習への向上心を高め、市民の交流により豊かな感性と充実した人生を送ることへの一助とすることから、[3] 施策を構成する事務事業の1. 公民館運営事業、2. 講座開催事業には、ズレはなく過不足も見当たらない。国は、平成20年の教育基本法に基づき「教育振興基本計画」を策定し、生涯学習の理念を明らかにしました。府は、「新大阪府生学習推進プラン」を、又、泉南市は、平成27年10月に「泉南市教育大綱」を策定した。これらの環境を踏まえ、[3] 施策を構成する事務事業の1. 公民館運営事業、2. 講座開催事業のうち、「1. 公民館運営事業」の重点化◎は妥当であります。(B) ● 活動・交流の場として提供し適切に利用されています。(C) ● 一次評価によると公民館の老朽化対策が課題等のようにあるが、そもそも公民館の老朽化対策は、どの事務事業に含まれるのか。公民館運営事業に含まれるのだとすれば、下記指標の設定において考慮すべきではないか。(C)					
		B 適切に行われている	1						
		C 改善の余地あり	2						
		D 改善の余地が大いにある							
② 施策の進捗状況	施策は計画どおり進んでいるか。 ● 施策の指標は適切か。 ● 構成する事務事業の評価結果を踏まえたものになっているか。 ● 所管課による評価、行革・財産活用室による評価は適切か。	A 大変評価できる		● 施設の老朽化が進んでいるので、計画的に対応を考えているようであります。(B) ● [2] 施策指標及び推移の施策指標(成果指標)の指標とした考え方は、公民館が生涯学習の場として市民が利用しやすい場であるかの検証基準として、① 公民館利用者(人)、② 講座参加者人数(人)の考え方は適切であり、当然指標も適切であります。3. 施策の評価も、説明・コメント等に記載のあるごとく、公民館は地域住民のために実際生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上等を図っており、生涯学習内容の充実にも貢献しているとの説明があり適切な説明であります。一次評価、二次評価共に「B」評価であり、市内4公民館の施設の老朽化が見られ、又、公民館施設の適切な維持管理を引き続き進めることより、「B」評価の施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われていると感じ、一次評価、二次評価共に、客観的に分析評価ができていると思います。(B) ● 公民館の利用者や講座の参加者は、往々にしてリピーター中心になりがちなので延べ人数の実績値でいくと特定の人に偏るのではないかと考えます。新たな参加者だけを把握できたらよいと思います。(C) ● 施策の評価指標は適切であると評価いたします。施策評価はBとされ、課題等に「効率性の観点からもコスト意識・・・」と記載されているにも関わらず、事務事業での効率性の評価はAとなっており、整合性が図れません。事務事業評価の結果を踏まえた施策評価となるように意識していただくことを期待いたします。(C) ● 公民館運営事業の成果指標として、利用者数にするのは問題ないと思いますが、即時対応が老朽化対策となると、修繕箇所も成果指標にすべきではないか。もっとも、修繕工事期間中は公民館利用者が減少してしまうことから、成果指標を1日当たりの利用者に変えるべきではないか。講座開催事業についても、講座に対する住民の満足度アンケート等は成果指標に出来ないのか。一次・二次評価では施設の老朽化対策を掲げているが、実際の事業に老朽化対策事業があまり見られない。(C) ● 目標値としての人数の設置が適切なか、検証が難しい。(C)					
		B 適切に行われている	2						
		C 改善の余地あり	4						
		D 改善の余地が大いにある							
③ 資源の方向性	今後、この施策の資源(人員・予算)の方向性は妥当であるか。 ● 改革、改善案は適切か。 ● 改善案を踏まえ、施策に投入すべき資源(人員・予算)今後どのようにすべきか。	A 大変評価できる		● 夜間業務だけでなく、終日泉南シルバー人材センターに委託できないものでしょうか。(C) ● 施設の老朽化もあり今後維持費の増加が見込まれます。生涯学習の場としての利用に関しては、適正な受益者負担となるよう、見直しを図られることを期待いたします。(C) ● 人員については、職員の再任用の配置も考えながら対応している。(B) ● 改革・改善案は老朽化対策を唱えるが、実際の事務事業は運営面のことが多く、ハードな事業が含まれていない。公民館運営事業は受益者負担の減免を5割としているが、実際にはこの割合を変化させる事でコスト削減の余地があるのではないか。公民館運営事業がR11において、事業費変化が無いのに、その他特定財源が増加しており、内容を明らかにすべきである。(C) ● 5. 改革・改善案については、即時的対応として、老朽化した公民館の修繕については、安全面でのプライオリティーを決め、緊急性の高いものから修繕を行っていくことと、又短期的対応としては、講座企画については関係部署と調整・連携し実施することと、又、中期的対応としては、公民館の施設改修は大規模予算が伴うものについては、十分に精査の上予算要求を行うことと、大いに的を得たものであります。公民館には、多くのクラブがあり、公民館利用者数・講座参加人数も多く、安全第一と考え、特に、老朽化対策には、資源を投入すべきであると考えます。(B) ● 将来的に4つの公民館の運営を維持することで果たしてよいのかについて検討する時期に来ているのではないか。代替機能を果たすことのできる施設はないか。(C)					
		B 適切に行われている	2						
		C 改善の余地あり	4						
		D 改善の余地が大いにある							

施策推進に向け、担当課として対策を講ずべき重要視点、施策運営に関する改善点

- 少子高齢化により地域社会が崩壊しつつあるので、公民館には地域の拠点としての機能がより求められるのではないのでしょうか。そのため、特定のリーダーではなく地域の全市民に向けての情報発信基地としての役割について検討するべきだと思います。
- 新公会計制度を活用したセグメント評価を実施するなど、受益者負担の適正化についての検討を図られるべきかと思います。
- 公民館利用者の目標値が高すぎて、実績値が下降線を辿っています。講師の高齢化に伴い、年々クラブの活動の減少もされているので保持に努力必要。
- 公民館運営、講座開催事業に共通して、今後は利用者にとどの程度の負担を求めるべきかは検討すべきであります。特に、講座開催事業は受益者負担金が少なく、公民館以外の代替施設の運営状況、とりわけ利用料金設定動向も踏まえて、内容の濃いものにする必要があります。もともと、一般財源の持ち出しが減少傾向にあるものの、利用者数が増えていることについては高く評価できます。
- 4公民館の老朽化等をした、什器・設備については、きめ細かい点検を期待するものである。(同内容は下記にも記載しているのでご参考にしていただければ幸いです。
- 受益者負担のあり方を、使用料の減免のあり方を含め、見直す必要はないか。

その他のコメント(施策もしくは施策を構成する事務事業に係る意見等)

- 市内の4館とも施設の老朽化が課題であるならば、修繕の進捗状況を指標に取り入れてはどうでしょうか。
- 公民館や講座の利用者に対するアンケート等を通じて、住民の講座を高める必要があるのではないか。講座1回当たりの参加者数の動向を踏まえて、優先順位の高い事業を中心に進めるべきであります。参加者の年齢構成も考慮して、広報活動も重要な分野だと思います。また、人口減少も考えると、講座開催事業もすべて直営ではなく、一部委託も検討すべきであろう。
- H29年公民館利用者実績は、空調設備の改修工事があり減少②講座参加人数H29目標値5,700人に対し実績値は2,856人で、達成率は50.1%となり、又、一面H28実績値5,481人と前年比実績率比率は、約52%と半減した。当該関係部門は、日ごろの怠りない設備のきめ細かい点検を期待するものであります。